

親鸞聖人御像 お迎え

令和6年10月16日水曜日、親鸞聖人像を京都より西来寺にお迎えすることができました。参道を上がつてくると徐々に笠をかぶったお姿で参詣者を迎えてくれます。

この御像は金寿堂さんによるものですが、金寿堂さんは江戸時代から続く老舗で、東本願寺前のお東さん広場のシンボル、「蓮華の噴水」を手がけたことでも有名です。御像のお顔は厳しいながらも温かみを感じられ、人々に「よく来たね、大変



東本願寺「蓮華の噴水」



だったね」と語りかけているようです。

台座は不入斗の滝澤石材店さんによるもので、石は茨城県産の真壁石青小目です。とても丁寧に仕上げられていて、風格があります。

題字は元横須賀市議会議長で西来寺責任役員の川島幸雄氏が書いて下さいました。川島氏は今でも書の練習を欠かさない能書家でもあります。



10月28日の報恩講前の正午、

読経に続き、川島幸雄氏をはじめとするお世話の方々とともに除幕、お披露目をさせていただきました。

境内のどの位置に来ていただくか、台座の高さはどうしようか等々悩みましたが、今御像はまるですつと以前からそこにいらしたように周りに溶け込んで見え、不思議な感じを覚えます。また金寿堂さんは西来寺にこの御像を納めてすぐ、長い歴史に幕を閉じられました。歴史ある金寿堂さんの最後の魂とも思えるこの親鸞聖人像とともにこれから歩んでいけることに深く感謝し、報告させていただきます。



左：除幕、お披露目  
右：「親鸞聖人御像」の題字を書かれた川島幸雄氏



本堂前設置の瞬間

下：設置当日の記念撮影



合掌

西来寺報

令和六年 冬 第五十号

起点・基点



今号の巻頭言は、過日の西来寺報恩講において読み上げた「表白(ひょうびやく)」を載せたい。表白とは、その法要の位置と、その法要を執行する意味が語られるものである。

数十年に一度の大法要も、一年に一度の報恩講も、毎朝の御内仏(御仏壇)への礼拝が起点であり基点である。お勤め(俗に言うとお経を読むこと)ができなくとも、せめて十秒、たった十秒で良い。阿弥陀様の前に座り「南無阿弥陀仏」と声にしてほしい。(住職代務者)



大塚山西来寺 令和六年報恩講 表白

敬つて、大慈大悲の阿弥陀如来の御尊前、ならびに、宗祖親鸞聖人の御影前にて、申し上げます。

本日ここに、有縁参集の人びともともに、御尊前を荘厳し、御聖教を誦して、宗祖親鸞聖人が還浄されてから満七六二年、七六三回忌の報恩講を厳修いたします。昨年、私も浄土真宗の各派は、浄土真宗立教開宗八〇〇年を慶讃しました。本年は、宗祖親鸞聖人が「よきひと」と師事し「真宗興隆の大祖」と讃仰された法然上人による「浄土宗立教開宗八五〇年」に正当しました。日ごろ、親鸞聖人の歩みに学ぶ真宗門徒の私たちであります。このたび、あらためて、親鸞聖人を生み出した教え、また、法然上人をも生み出した願いに、思いをいたすこととなりました。

さて、当山墓地におきまして、このたび、合同墓の建立がなされました。一家一族の墳墓の継承が難しい現今において、一つの形の提示となりましょう。また、本堂前に、宗祖親鸞聖人の御像をお迎えいたしました。西来寺が、阿弥陀如来の本願を聞く念仏の道場であることの今一度の確かめが、ここに求められていると感じます。以下、愚僧が住職代務者として、当山の毎年の報恩講で表白してきた一文を再読いたします。念仏弾圧の時代も、戦国乱世の時代も、やりきれない思いとともに、それでも「ただ念仏」の教えに生きられた宗祖親鸞聖人や無数の念仏者たちがおられるのです。それらの方々が憶念しつつ、ともどもに手を相携えて、報恩講を一同で謹んで厳修することをもって、連続無窮の法灯をみずからがいただき、そして次代に手渡ししていくことの決意といたします。

令和六年十月二十八日 合掌  
横浜久保山 真宗大谷派  
法皇山 西教寺 副住職  
横須賀不入斗 真宗大谷派  
大塚山 西来寺 住職代務者  
法名 釋大信

健康コラム



ヨガ講師 コツコツ

お家ヨガ 15

気持ちをリフレッシュ!!

新しい年を迎えるにあたり、健康で過ごせるようお願いを込めるかたが多いのではないのでしょうか？

健康は身体だけではありません。心も健康に一年を過ごせたら良いですね。



- 1 椅子に浅く腰掛け、脚を広げて安定させます。
- 2 フェイスタオルの端を持ち、息を吸いながらタオルを上を持ち上げて胸を開きます。
- 3 息を吐きながらゆっくりと下ろします。
- 4 斜め上を見ながら深い呼吸で5回程繰り返します。

★本堂で 毎月開催

まい先生のヨガを体験してみませんか?  
西来寺本堂午後2時より  
1月17日(金)・2月7日(金)・3月7日(金)  
参加費千円。飲み物・タオルを忘れずに。

行事のご案内

十二月三十一日(火)  
午後十二時 歳末昏時  
午後十一時四十五分 除夜の鐘の打鐘



西来寺梵鐘は横須賀市内に残る最古の梵鐘で、横須賀市の指定重要文化財です。みなさんについて、新しい年を迎えましょう。

一月一日(水)  
午前十一時 修正会  
修正会は元日に行われる法会で、その年の生活の目標を立て、心を新たに求道の道を進む決意をします。是非、ご参加ください。

西来寺 〒238-0051 横須賀市不入斗町3-38 / TEL 046-822-1020 / ホームページ <https://sairaiji.com>



報告

令和六年

真宗大谷派

大塚山

西来寺

# 報恩講



12:00

親鸞聖人御像お披露目式  
お披露目法要の後、  
記念撮影をしました。



報恩講を知らせる鐘を  
9つ鳴らします。

13:00 本堂に向かう

三浦組から7名の僧侶が  
来ていただきました。



13:15

勤行（おつとめ）本堂に響く読経に皆で心を寄せました。

14:00

休憩後のヨガ まい先生によりチェアヨガで肩も背中もリラックス

令和六年十月二十八日（土曜日）、西来寺にて報恩講が行われました。

勤行の前に本堂前にお迎えした親鸞聖人御像のお披露目式をおこないました。三浦組から7名の僧侶が来てくださり、本堂に響く美しい読経に皆で心を寄せました。

今年の記念講演は講師に、元朝日新聞記者、緒方健二氏を迎え、お話をうかがいました。「殺人誘拐、強盗、ハイジャック、立てこもり、

14:15

保育士の勉強を本格的にされた理由。「はっきりとした答えはまだみつかっていません。とにかく学んで、自分ができていることをやりたい」と話す緒方先生の信念に心打たれました。



記念講演 緒方健二氏

## 忘れもしない朝8時すぎ

1995年3月20日月曜日。その日私は、早朝の取材で茨城県に行っており、そこから警視庁がある霞が関に戻ったのがちょうど8時過ぎ。霞が関はパトカーと救急車でいっぱいでした。なにがおこったのかと地下鉄の駅のホームに降りていこうとすると、警察官にもすごい力で「入るな！死ぬぞ！」と羽交い締めにされました。このようないきなり強制的なことは今まで聞いたことがありませんでした。これは尋常なことではないと思いました。すぐに、警視庁の6階

の捜査一課に駆け込みました。すでに他の新聞社メディアの記者が押し寄せていました。捜査一課長を問い詰めると、詳しいことはあとで説明するから「これはサリンだ」「とんでもない殺人の化学兵器だ」「号外でもテレビでもニュース速報でも一刻も早く流してくれ。そして、なにかわからずに、衣服にふれたり、近寄ってそれを嗅いだりしないでくれ」「被害拡大を防いでくれ」と言われました。

## 一から学びなおして、自分にできるなにかを探そうと思った

数多の事件の中で、子供が被害に合う事件が多くなってきました。誘拐されて殺されて山の中に捨てられた子供。児童虐待も増えてきました。生まれて間もない赤ちゃんを台所の床にたたきつけて死なせたり、やかんに入った熱湯を2歳児の頭からかぶせて大火傷を負わせたり。物理的な加害だけではなく、育児放棄で亡くなる子供も増えてきた。亡くなったのは4歳か5歳の子供。お母さんは1週間か10日間、家を出て外を遊び歩いていました。同じアパートの住人が異臭がすると届けが出て、そこで初めて警察が室内に入ったからに残された子供が亡くなっていました。

子どもは自分がなにをされているかわからない状態で被害に合っています。事件があるたびに「いったい、この国はどうなっているんだ。この社会はなにやってんだ。」という思いが大きくなりました。一から学びなおして、自分にできるなにかを探そうと思えました。子供を守るために社会のしくみを変える、あるいは、専門知識を得て子供を守ることに貢献できるのではないかと、一昨年（2022年）4月に短期大学保育学科に入学し、今年の3月に卒業しました。実習では子供たちから沢山の「心のプレゼント」をいただきました。振り返れば、記者のときの私は視野が狭かったなと思います。

## 忘れてはいけぬ

今でもオウム真理教に関して取材や執筆を続けています。

元信者の取材では、入信当時、大学ではできない自分がしたい研究ができると希望が持てたとか、心が安らいだなどという声を聞きます。さまざまな家庭環境から東京に学生として生活をする若者です。不安と悩み、苦しみを抱えている中で、ちょっと楽になってみないかという誘いがあるわけです。

今はどうでしょう。不安を抱える状況にあるのは、そういう若い人だけではありません。今後の生活にも見通しがない、いつどうなるかわからない、という人がどれだけ多くなったのか。日本の政治もほんとうに弱い立場の人たちを救いたせるような政策を打っていません。そういうときに、オウムのようなものが入り込んでしまってもおかしくありません。



西来寺のホームページでは、当日に撮影した写真や勤行と講演の動画がご覧いただけます。

強面（こわもて）・・・のあと、笑い

応接間でのひとこま

《記念講演》 講師 緒方 健二 氏

講題 いまだから語る オウム事件

～「松本サリン事件」から30年。  
敏腕事件記者はなぜ保育士を目指したのか～

